アス混合物

# 常温域で製造・施工

## 日本道路 輸送距離さらに延伸

日本道路は製造・施工時の温度を１００度以下にできる低温化アスファルト混合物を試験施工した。良好な製造性・施工性を確保できることを確認した。製造・施工時の温度が中温化アスファルトよりもさらに低くなり、製造後６時間まで施工できる。施工時の熱中症リスクの低減や合材工場から遠方の地域への輸送・施工に期待がかかる。

水を散布すると化学反応により強度を発現する常温合材の技術を応用して開発した。中温化合材は通常のアスファルトよりも30度程度低くできるのに対し、低温化合材はさらに低い常温域での施工が可能になる。

室内検討では通常のアスファルト混合物と同様に十分な耐久性と初期強度を持つ事を確認済みだった。８月に同社のアスファルト合材工場敷地内で製造・施工し、施工性や製造性が良好と確認した。

試験施工では低温化アスファルトと通常のアスファルトを隣接して施工し作業環境を比較した。サーモグラフィーでの温度比較や作業員への聞き取りの結果、施工時に感じる熱さが低減し、作業環境が大幅に改善されたことを確認した。

通常のアスファルト合材は１５０～１８０度の高温で出荷され、輸送距離は温度低下しない２時間以内の範囲に限定される。中温化合材は製造時の温度が低下する分、最大３時間の範囲まで輸送距離を伸ばせる。低温化合材はさらに輸送距離が伸びる。災害時に復興支援を目的に合材工場から遠方の被災地に合材を出荷できる可能性がある。



低温化アスファルトの施工状況（報道発表資料から）